

第9回 レポートの書き方 (1)

レポートとは

- 感想文は、自分の経験や自分の気持ち・感情を書き表したもの(主観的な見方)
 - 印象に残った事柄・文章とその理由を述べる
 - 「もし自分なら」「こういう状況なら」など仮定して考えてみる
- レポートは、調査や実験の結果わかった『事実』と、それに基づく自分の『意見』をまとめたもの
 - 事実: 内容が本当かどうか(真か偽か)客観的に確かめられる
 - 意見: 書き手の考え(判断、推測)をあらわしている(客観的な事実に基づく)

自分の考えをまとめて相手に伝える ―論理的な文章のまとめ方―

レポートなどで、自分の考えを確実に相手に伝え、それを理解してもらうには、どうすればよいでしょうか。それには、「問題点を共有し、自分の考え(結論)とその理由を明確にする」ことが重要です。

「考えが伝わる文章」の構成

自分が一番伝えたいことを、相手に確実に伝える文章にするには、次の構成でまとめてみましょう。

1. 問題: ひとつの問題を示して問題意識を共有する

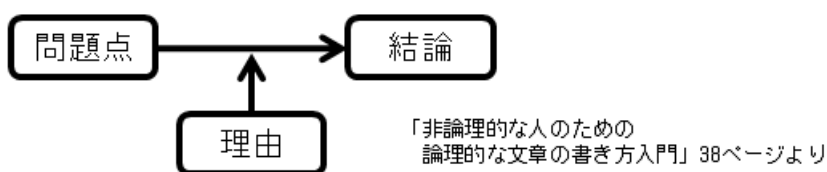
「～すべきかどうか?」「～どうすればよいか?」「なぜ～なのか?」

2. 結論: 相手を一つの結論へ導く

「～すべきである / すべきではない」「それには～がよい」「～だからだと考えられる」

3. 理由: 結論にいたる筋道を相手に理解してもらう

「なぜなら～だからである」



なお、「読みやすい文章」だからといって、それが「考えが伝わる文章」とは限りません。(エッセイ、コラムなど)

「自分の考え」を明確にする追加要素

基本形である「問題・結論・理由」に、次のような要素を加えると、さらに説得力のある文章になります。

- 理由を支える証拠: 相手に理由を納得させる根拠を示す

「～について説明すると...」「～によると...」

- 反論への備え: 反対意見を想定してそれに対する再反論を示す

「～という考え方があるが...」「～という反論があるかもしれない、しかし...」

- 結論の確認：全体をまとめる

参考文献

- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.03)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナビゲーター」, くろしお出版 (2007.04)
- 飯間浩明「非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門」(ディスカバー携書 029), ディスカバー・トゥエンティワン (2008.12).
- 石坂春秋「レポート・論文・プレゼン スキルズ」, くろしお出版 (2003.03).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書 1603), 講談社(2002.04).
- 泉忠司「90分でコツがわかる！『論文＆レポート』の書き方」, 青春出版社 (2009.07).